



東京の新名所「史蹟と銭湯」

江戸東京研究センター「江戸東京の“ユニークさ”」プロジェクトチーム研究会



近現代の東京には、伝統的な名所に加え、新しい名所が次々と誕生して人々をひきつけてきました。歴史上重要とされる「史蹟」と、庶民生活の憩いの場「銭湯」は、ともに近現代の東京名所を考えるうえで重要です。近代東京の「史蹟」はどのような社会背景のもとに選定され、保存されたのでしょうか。また、東京の庶民に身近であった「銭湯」は、現代人の非日常的な贅沢空間として名所を獲得するのでしょうか。江戸東京研究センターの若手研究者の発表をもとに、近現代の東京の新たな名所形成の動きについて考えます。

- 14:00～ 「近代東京における史蹟保存事業とその周辺」
齋藤智志(秋山庄太郎写真美術館主任学芸員)
- 15:00～ 「ご近所のぜいたく空間“銭湯” —現状と可能性—」
栗生はるか(法政大学デザイン工学部建築学科教務助手)
- コメンテーター 米家志乃布(法政大学文学部教授)
岡村民夫(法政大学国際文化学部教授)

2020年3月7日(土)
14時~17時

法政大学市ヶ谷キャンパス
大内山校舎5階 Y505教室
入場無料・事前申込不要